

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

平成 29 年度は中心となる取組を着実に進め、学内外への波及効果に努める中で、アクティブ・ラーニング（AL）型授業やルーブリック活用による学修評価をテーマに、高等学校との情報交流や連携に大きな進展があった。また、中間評価において「S 評価」という高い評価を受け、本学 AP 事業を更に加速することが期待されている。平成 29 年度の進捗状況の詳細は以下のとおりである。

## 【学内の実施体制】

学長・副学長（教育学生担当）を中心に、YU-AP 事業推進委員会、テーマ別タスクフォース及び自己点検・評価タスクフォースによる事業実施体制のもと、事業ロードマップに基づき事業を実施した。また、国内外の専門家から指導助言を受けるアドバイスメETINGを 3 回開催したほか、平成 30 年 3 月に外部評価委員会を開催し、前年度の外部評価の指摘を踏まえた改善状況報告を行うとともに、平成 29 年度事業取組に関する講評を受けた。さらに、平成 29 年度 AP 事業成果交流会「共育ワークショップ 2018」を高等学校と連携する形で企画し、大学生・高校生・大学教職員・高校教員 90 名が一緒になって AL 型授業について意見交換・発表を行い、今後の AP 事業の充実に活かすこととした。

## 【中心となる取組】

- ①テーマ I（アクティブ・ラーニング）・・・AL ベストティーチャー表彰の実施、AL ベストティーチャーによる模擬授業型 FD・SD ワークショップの新規企画、AL 型授業実践やアクティブ・ラーナーの学びを取材した『Teaching & Learning Catalog Vol.2』の刊行、さらには、正課外教育プログラムとして、ライティング及びプレゼンテーション入門講座の新規企画に取り組んだ。
- ②テーマ II（学修成果の可視化）・・・ルーブリック活用による学修評価に関する FD・SD ワークショップの企画、学修成果可視化モデル開発のための直接評価・間接評価指標の整理、成績・学修到達度調査・学修行動調査・AL ポイントなどの教学データを活用・分析するフレーム構築、さらには、事務職員を対象としたラーニングアドバイザー養成講座の新規企画に取り組んだ。

## 【取組の成果】

- ①テーマ I（アクティブ・ラーニング）・・・模擬授業型 FD・SD ワークショップ、『Teaching & Learning Catalog Vol.2』を通して、AL ポイント認定制度を中心とした AL 推進の好循環が進み、AL 型授業比率は学士課程教育全体の 70%を超え、本事業最終目標を達成する状況となった。このほか、ライティング及びプレゼンテーション入門講座が約 100 名の参加者を得て、継続実施することとした。
- ②テーマ II（学修成果の可視化）・・・ルーブリックを活用した学修評価に関する FD・SD ワークショップでは高校教員の参加も多く、高大連携でルーブリック活用について情報交流する有意義な機会となった。学修成果可視化モデル開発に関する成果を『アニュアルレポート 2017』に公表した。また、ラーニングアドバイザー養成講座修了者 8 名には「ラーニングアドバイザー認定証」が授与され、学生の「学びの好循環」に貢献できる学修支援者としてのスキルや態度を学んだ。

## 【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

テーマ I（アクティブ・ラーニング）では、AL ポイント認定制度が定着し、「①AL ポイントのシラバス入力」⇒「②AL 型授業実践」⇒「③AL ベストティーチャー表彰」⇒「④AL 型授業のグットプラクティス普及（模擬授業型 FD・SD ワークショップ、授業実践集）」といった AL 推進の好循環サイクルを確立している。また、テーマ II（学修成果可視化）では、直接評価・間接評価指標に基づく分析フレームが整備されつつあるほか、修学指導調査実施及びラーニングアドバイザー養成講座創設に伴い、学修成果可視化による修学指導体制の一層の充実に努めている。

## 【学内外への波及効果】

本学 AP 事業は、中間評価「S 評価」に加え、学内外からの関心が高く、宇都宮大学及び宇都宮工業高等専門学校が主催する AP 事業成果報告会での基調講演のほか、山口県内高等学校での AL 型授業研修講師依頼や山口県立下関高等学校のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 採択に貢献した。